

検査部臨床検査技師 兼 国際医療救援部 喜田たろう

マレーシアのクアラルンプールには国際赤十字赤新月社連盟(以下、連盟)のアジア大洋州事務所が置かれています。救援、ロジスティクス(物流全般のこと)、保健衛生、支援国赤十字社との調整・報告等、多岐にわたる分野で、各国赤十字社から派遣されたスタッフとマレーシア人スタッフ約 80 名が活動を行っています。

私が勤務する地域ロジスティクス部門(以下、RLU)は、12 名のスタッフで構成されていて、一般ロジスティクス、物資購入、車両管理の3部門に細分され、アジア大洋州地域のロジスティクス活動を統括しています。部門長はロシア出身、他ニュージーランド、スペイン、インド、セルビアなど多国籍な外国人スタッフ、またマレーシア人スタッフもマレー系、中国系、インド系で構成されており、事務所の中をさまざまなアクセントの英語が飛び交っています。

ロジスティクスとは人や物の動きを管理する部門で、救援物資の場合、物資が業者から納入され、経由地を経て、被災者の手に渡るまでのすべて部分の保管・輸送を担当します。

このRLUで業務に携わりながら、連盟のロジスティクスシステムを学ぶのが今回の派遣目的で、これまでにアメリカ、デンマーク、フィンランドなどの赤十字社から6名のスタッフが派遣され、その多くが現在連盟のロジスティクス要員として活躍しています。

RLU の戦略目標として、「災害発生後 48 時間以内に 5,000 世帯、さらに 2 週間以内に 15,000 世帯に必要な物資を届けるための備蓄」を掲げています。これらの備蓄物資は、その多くが支援国赤十字社の保有物資であり、このうち日赤が保有する備蓄物資は 10,000 世帯分をカバーしています。アジア大洋州地域における連盟の活動において日赤が重要な位置を占めていることを実感します。

私に与えられている役割のひとつは、マレーシアに搬入される物資の情報管理、連盟倉庫での連盟基準に則った適切な管理です。物資の輸出入にはさまざまな手続きがあり、必要とされる情報を、タイミングよく通関や倉庫管理業者に提供していかねばなりません。また場合によっては、救援物資として税金の免除を申請するための手続きも必要になります。

連盟が契約する倉庫は、マレー半島の西岸、マラッカ海峡に面した、クアラルンプールから車で約1時間のクラン港にあります。約 2500 平方メートルの広大なスペースが連盟に割り当てられていて、ここにテントやブルーシート、毛布、蚊帳等の救援物資が備蓄されています。現在は昨年秋に発生したフィリピン台風被害等に使用された物資の補充が行われています。また赤十字国際委員会が新たに購入する救援物資1万世帯分を管理することになり、今後数ヶ月にわたってこれらの物資の受入を行っていきます。

これまで病院内での臨床検査業務の側ら、災害時には日赤医療チームの管理要員として支援業務を担当してきました。支援業務の中でも救援物資の被災国への輸入、被災地までの輸送、救援物資の追跡調査等、ロジスティクスに関する業務はどれも専門性が高く、困難を感じることも多々ありました。今回の経験を活かして、日赤の国際救援活動の充実に努めるとともに、今後は連盟のロジスティクス分野における活動にも貢献していきたいと考えています。



倉庫のスタッフと面談しながら備蓄物資を確認する。



特殊な物資の品質検査を行う場合は、専門家に立会いを依頼する



連盟倉庫